

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 73

「田園都市三豊市と香川用水」

香川県 三豊市長
よこやま ただし
横山 忠始



三豊市は、香川県西部に位置し、7つの町が合併誕生した全国的にも珍しい市です。人口は約73,000人で県下2番目、面積は222km²で県下3番目となりました。

南は阿讃山脈で徳島県と、北は瀬戸内海の中央部に当たる燧灘と備讃瀬戸に接しており、海から山までの変化にとんだ地形を形成しております。市内三豊平野には広大な農地が広がり、高速自動車道路、インターチェンジ2箇所、国道3路線を中心とする整備された交通網の中に、4箇所の温泉、西日本有数のマリナー等の観光施設、4箇所の内陸型工業団地、国際貿易港を中心とする3つの工業団地が自然の中に融合し、まさに田園都市にふさわしい景観を見せております。

私たちの住む讃岐の国は、温暖な気候の反面降雨が少ないため、水にまつわる話で明るい話は少なく、古来より、水とは戦ってきたという方が妥当だと思いますが、一方では、水を大切にするための慣習として、番水制（輪番制）、水ブニ、承水、配水分水などの知恵をはぐくんできました。また、ため池の堤防を作る技術は、現代のフィルダムの技術に応用されています。

水資源の不足は近世における香川の発展を妨げていましたが、香川用水が阿讃山脈を貫通して三豊市の財田に水口が設置され、香川県全域に配水が始まると、水事情は一変し、香川における産業は飛躍的な発展を遂げてまいりました。

今や香川用水は、三豊市民をはじめ香川県民の生活の土台となっていますが、安易に水が利用でき始めると、人は時として現状に慣れてしまい、水の“ありがたさ”を忘れ、先人たちが築いてこられた知恵を忘れ始めてしまいます。水の無駄遣いが日常化してきた現在において、自然は警鐘するかのよう干ばつという罰を与え、私たちは、改めて水の大切さを教授されました。

しかし、水は文化のバロメーターといわれるように、需要は伸び続けています。その対策として三豊市の山本において300万トンの水道専用調整池が建設されており、平成20年の完成を目指しております。

この調整池において、もう一度過去における讃岐人の水とのかかわりを見直し、水利用に対する“もったいない”の心の湧き水を湧かせたいものです。



香川用水東西分水口



調整池完成予想図